

# 会 議 録

《会議名称》令和元年度第3回岸和田市景観審議会 《開催日時》令和2年2月3日(月)15:00~17:00 《開催場所》岸和田市役所職員会館 1階 選挙管理委員会室												承認		
												会長	行 委員	頼友 委員
												2/24	2/27	2/25
《出席者》（景観審議会委員出欠状況）														
大野 委員	岡田 委員	加我 委員	片原 委員	岸田 委員	小池 委員	竹田 委員	田中 委員	中野 委員	深田 委員	星乃 委員	堀田 委員	行 委員	頼友 委員	
○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	
(委員14名中、12名出席)														
岸和田市) まちづくり推進部長 吉田 事務局) 都市計画課 山田、渡邊、柿花、有本、滝元 傍聴者) 3名														
《概要》 <b>■審議案件</b> 1. ころに残るまち景観（第2回）の推薦について 2. ころに残る景観資源発掘プロジェクトの実施目標について <b>■報告事項</b> 1. ころに残る景観資源発掘プロジェクトの次回テーマについて 2. 令和2年度年間スケジュール（案）について														
《内容》 <b>■岸和田市審議会等の会議及び会議録の公開に関する条例等について</b> ・ 会議録確認者として行委員と頼友委員の2名を会長が指名。 <b>■議案第1号「ころに残るまち景観（第2回）の推薦について」</b> ころに残るまち景観（第2回）の推薦について、事務局より説明。 <b>【質疑の概要】</b> (会 長) ころに残る景観資源発掘委員会から推薦をいただいたまち景観10件についてこれより審議を行う。応募作品40作品のうち、委員会で現地確認を21作品行い、最終的に10作品の推薦を受けている。 (委 員) 感想になるが、「時を越えて（春木中学校の赤レンガ）」は、10件の中で特に目に焼き付く景観だと思った。 (会 長) 大阪北部地震でも問題となったブロック塀等の耐震改修について、春木中学校の赤レンガは改修されているのか。 (事務局) この赤レンガ塀に関しては地元住民からも残してほしいという声もあり、補強し保存に努めていると担当課より聞き取りをしている。														

(委員)

この10件に関してどういう審議をするのか。変わる可能性もあるのか。

(会長)

妥当かどうかを審議して頂きたい。妥当でないということになれば件数も変更となる。

(委員)

遠景の景観が「夕暮れの北阪」しかなく、もう少し遠景の景観が欲しかったと思う。

(会長)

今回、昨年のもち景観「日没前」のような山並みや町並みを望む遠景の作品は数点あったが、最終的に「夕暮れの北阪」だけになった。「夕暮れの北阪」以外の作品については遠景でとらえたときに近中景にある建物のアクセントカラーが強すぎたりだとか視点場があまり良くなかったなどのものがあった。「夕暮れの北阪」は、参道や境内地が地域の人々に管理されており非常に印象深く、また周辺集落が昔の建築様式が保存されている点と、大阪湾を望み地形を確認できる点で、近中遠ともに印象深かった。

(委員)

適当でないという意味ではないが「元旦の朝日に映える岸和田城」は城単体にフォーカスしている。もう少しお堀や岸城神社など周辺を含めてはじめて景観だといえるのではないかと感じた。

(委員)

朝日を受けて浮かび上がる瞬時の風景であり、朝日を浴びたときの岸和田城の姿ということで特化した景観だと思う。ただ元旦だと限定しすぎている感じもする。

(会長)

岸和田城は過去に他テーマでも指定があるが、天守閣が朝日に映える移ろいをとらえる景観として新しい視点でとらえており、毎朝、元日に感じられるリフレッシュした気分を都度思い出せると思う。

(委員)

この作品に限らず国籍を問わず楽しめるものがあるので講評文にある「国籍を問わず」という文言が気になる。

(委員)

国籍を問わず親しまれるものであるため、あえて入れる必要はないのではないか。

(委員)

エピソードのなかで外国人の方を案内することが書かれており、今後指定された景観資源を活用するうえで外国人の方を案内する視点は非常に大事だと意見し、それを講評文に反映していただいた。

(会長)

発掘委員会の中で応募いただいた方のエピソードを尊重するという議論があり、各作品の物語を重視して

「元旦の朝日に映える岸和田城」については「国籍を問わず」という講評にしている。

(委員)

「泉光寺の桜」のタイトルについて、「塔原町のサクラ」のように桜に着目した印象を受ける。「四季折々の趣がある中で映える泉光寺」という意味合いだと思う。ネーミングを変更できるのか。

(事務局)

他の作品についても応募いただいたタイトルから少し変更したのもある。

(委員)

岡部藩主の菩提寺であり、山門のみでなく歴代藩主の五輪塔が整然と並ぶところを見てほしいという思いがある。

(委員)

昔は五輪塔の周辺に高木があり塀となっていたが、周辺に住宅が建ち、落ち葉の問題で現在木が切られ、雰囲気が大きく変わった。景観資源に指定されることでどうなるのかという視点もポイントになると思う。

(委員)

山門と五輪塔について熱く語られているので、写真に五輪塔があったほうが良いと思う。

(会長)

昨年度も神社境内地や寺の中での祭事について議論になった。テーマが「まち景観」ということで公共の場から眺められる点から昨年度は西福寺だけを指定した。今回の泉光寺については五輪塔も見てほしいが、まち景観としては山門の景を前面に出したという経緯がある。桜だけではなく山門と桜であり「泉光寺と桜」というタイトルはどうか。

(委員)

(一同) 了承。

(委員)

紅葉は「もみじ」じゃなく「こうよう」か。

(会長)

この紅葉は昔の使い方木々の葉っぱが赤や黄色になることを言っている。また、桜は4月の桜だけを限定して言っている。

(委員)

「阿間河滝町 長屋門坂」について、「長屋門坂」という単語の出典はどうか。

(事務局)

国交省の手づくり郷土賞の講評文などでは長屋門と門長屋の両方が使用されており、学術上どちらが正し

いかはわからない。

(会 長)

「阿間河滝町 長屋門坂」については応募タイトルを尊重させていただくということでよいか。

(委 員)

(一同) 了承。

(委 員)

「宮本町 城見橋への道」について、あえて視点場を保全するという解釈でよいか。今のたたずまいを大事にしたいという意味で視点場というのもありだと思うが。

(会 長)

今まであまり行ったことがなく、こんな通り、こんな場所があるのだという意味合いで視点場としたが、周りの建物が重要であり、講評については少し修正を行う。

(委 員)

「時を越えて(春木中学校の赤レンガ)」について、タイトルを「時を越えて(春木中学校の赤レンガ塀)」にした方がいいと思う。また、大正時代とあるが100年を超えるとするのは注意が必要。

(委 員)

大正初めに工場ができたため100年は越えている。

(会 長)

では議案第1号については本案の通り承認して良いか。また、講評文については、私と事務局で一部修正するというので良いか。

(委 員)

(一同) 了承。

■議案第2号「こころに残る景観資源発掘プロジェクトの実施目標について」  
こころに残る景観資源発掘プロジェクトの実施目標について、事務局より説明。

【質疑の概要】

(会 長)

今回のまち景観を含めると全部で何件か。

(事務局)

全部で70件となる。

(委 員)

提案いただいた今後の募集テーマについて、今までの指定資源全て岸和田らしい景観だと思うが、最終年に設定している岸和田らしい景観(総括)のイメージを聞きたい。

(事務局)

原点に立ち戻り、テーマを設定せずに募集をしてもいいと考えたのと、今までのテーマで募集しきれていない景観についても対象となるよう募集したいと考えている。

(委員)

このプロジェクトは定着して来ており、リピーターもいる。また、まちかど審査で多数の人が審査に関わることなど、継続的な実施はとても意義があると思う。

(委員)

市民の認知度があがってきているこのプロジェクトを、市内で開発をする事業者にも認識を広めていくようなプロジェクトの発信の方法があってもいいと感じる。景観と開発はなかなかリンクしてこない部分があって、プロジェクトをさらに広く知ってもらい、実際に作る場所にも影響するよう意識を変えてもらい、質を高めていくような展開をしていかれてはどうかと思う。

(委員)

いつまでも発掘するだけでなく、創作を含んでももう少し違った視点から景観を考えるべきである。

(委員)

景観をいかに活用するかということを考えていただきたい。岸和田のまちをどう作っていくか考える中で景観を活かしていくことが必要だと思う。

(会長)

このプロジェクトは、岸和田市景観形成基本方針の「まもる、はぐくむ」が中心になっていると思うが、そろそろ「つくりだす」について考えていけたらと感じている。景観資源の横で起こる開発事業に対して注意を促すなど、環境デザイン委員会などでもこのプロジェクトをうまく活用してほしい。また、ゆめみヶ丘岸和田景観協定など、住民の方の意識啓発とともに開発される方その方々に理解していただくことが重要かと思うので、新たな施策などをこの審議会でも議論できればと思う。私としては、景観形成基本形成にある「景観阻害要因を取り除く・あらためる」がもっと大事だと思う。景観に配慮され、都市景観賞等で注目できれば、もっといいものになると思う。事業者がちょっと緊張するような景観行政をやっていければと思う。景観資源の100件を目指し、保全だけでなく創出にもうまく活用できるような施策を考えていければと思う。議案第2号については本案の通り承認してよいか。

(委員)

(一同) 了承。

■報告案件1「こころに残る景観資源発掘プロジェクトの次回テーマについて」

こころに残る景観資源発掘プロジェクトの次回テーマについて、事務局より説明。

(委員)

募集時のポスター右側一番下の写真について、「暮らし」「生活」と言葉が入っているが、写真とどんな関係があるのか。

(事務局)

久米田池は日常的に多くの方がランニング等のコースとして利用しているのでこの写真を使用した。

(委員)

ひとの営み景観ということで人の写真が出てくると思うが、著作権の問題について念押ししておいた方がいいと思う。また、応募用紙に追加で質問事項を記載できるのであれば、前回のアンケート時にも議論があったように市在住期間を記載してほしいと考える。

(事務局)

見開きの応募用紙下に留意事項として提示しているが、もう少しわかりやすく記載したいと思う。

(会長)

場合によっては審査した結果、応募された写真を差し換えるということもあるかもしれない。

(委員)

発掘委員会の審議において、あくまで写真は景観資源を知る手がかりにすぎず、タイトル、写真、エピソードの全てが一体での作品という扱いではないかという話があった。

(委員)

まちかど審査をする際にどう判断するのか。

(事務局)

過去の応募の際には、人物が特定できるものは事務局から応募者へ肖像権などの了承について確認をした事例もある。被写体が第三者だと特定が難しい。また、モザイク等の加工をするとあまり良くないと思うので事務局で撮影したものに、差し換えるのも一つの方法だと思う。

(委員)

写真、タイトル、エピソードなど、どこまで作品なのかを考えなければいけないと思う。

(委員)

人にフォーカスすれば著作権等の問題は必ず出てくるが、それを恐れたら賑わいの写真を残せない。応募してくる人も著作権等を意識して、背面からなどの写真を出すと思うが、正面から写した写真は差し替えの必要もあるかと思う。

(会長)

まちかど審査の際、場合によってはぼかしなどが必要になるかもしれない。岸和田市の場合はだんじりの様子は問題ないと思うが、それ以外の取り扱いは市の他部局とも協議し、進めてほしい。また、応募の際、市在住、在勤期間についても記載してもらいたい。

(委員)

ひとの営み景観ということで、働くというキーワードがあればいいと思う。農業は写真があるので産的などところが入ってきてもいいと思う。また、今使用しているものは、子どもと高齢者の写真に偏っている

のでその偏りも気になっている。

(会 長)

働くというキーワードがイメージできるように写真や別表1でも入れていただきたい。室内だったらどうするかということは、まちかど審査と発掘委員会のほうで議論できればと思う。まちかど審査で多くの票を集めてくると発掘委員会でも議論すべきである。次回の発掘委員会は議論が少し難しくなるかもしれない。

■報告案件2「令和2年度年間スケジュール(案)について」

令和2年度年間スケジュール(案)について、事務局より説明。

※ 質疑なし

■その他

(事務局) ・次回の景観審議会については令和2年5月頃予定。

以上